



もっと知りたい？

◆改築のきっかけは、昭和41年(1966)の土砂災害

稲荷川と大谷川との合流点から5kmの地点にある日向砂防堰堤は、昭和3年(1928)の完成後、昭和28年(1953)に6mの嵩上げ工事を行っています。昭和41年(1966)の台風20号では、稲荷川の源頭部の崩壊地が拡大し、土砂が多く生産されましたが、土砂は山腹や河道に堆積して、下流に大きな被害を及ぼすことはありませんでした。しかし、雨の降り方によっては多量の土砂が流出する恐れがあるため、日向砂防堰堤をさらに嵩上げする工事が行われることとなりました。

完成年度	工事内容	ダム高	ダム長	体積	貯砂量
昭和3年(1928)	建設	13.6m	—	—	—
昭和7年(1932)	補修工事	—	—	—	—
昭和28年(1953)	第1回嵩上げ	19.6m	100.3m	3,692m ³	216.0千m ³
昭和39年(1964)	災害復旧	—	—	—	—
昭和57年(1982)	第2回嵩上げ	46.0m	173.0m	99,795m ³	1280.0千m ³

◆不透過型堰堤が土砂の流れを調節するしくみ

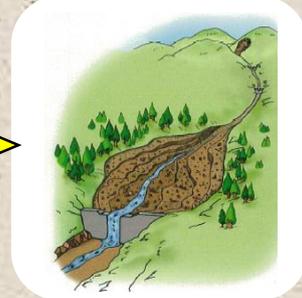
日向砂防堰堤は「不透過型砂防堰堤」です。不透過型砂防堰堤とは、土砂を堆積することで山脚を固定し、山腹の侵食崩壊を防ぐ堰堤です。



①土砂で一杯になっていても効果がなくなるわけではなく、堰堤の上流側では土砂がたまって勾配が緩くなり、川幅が広がって水が流れるスピードも遅くなる



②大雨と一緒に大量の土砂が流れてくると、川の勾配が緩い堰堤の上流側で水のスピードが遅くなり、既にたまっていた土砂の上にさらに大きく一部土砂が積もってたまる



③上にたまっていた土砂はその後、雨が降るたびに水の力で削られ、少しずつ下流に流れ出ていく(その後、大雨が降ると再び②のように大きく積もってたまる)

日向砂防堰堤